

令和5年度 第3回学校運営協議会

日時：令和6年3月5日（火）

会場：大阪府立豊中高等学校能勢分校 会議室

出席者：10名

能勢分校会議室において、第3回学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会委員5名、学校側からは准校長、教頭、課長補佐、首席が出席しました。

3回目の運営協議会では、今年度の能勢分校における取組みの総括と次年度に向けての課題について議論しました。

内 容

協議 15:00～16:55

1. 准校長挨拶

- ・3年生は2月28日に卒業式を実施し24名が卒業できた。皆様のサポートに感謝する。
- ・2年生は1月末に3泊4日で北海道に修学旅行へ行き、現地の高校生と交流した。
また、豊中高校本校の課題研究発表会にて分校生も発表した。
- ・1年生もこれまでの取組みの発表を行うなど授業を通じて探究活動に取り組んでいる。

2. 協議事項

- ①学校教育自己診断結果について
- ②第2回授業評価アンケート結果について
- ③各系列の取組みについて今年度の総括

委員からの意見等

・学校教育自己診断（生徒）で、「授業や宿題、放課後の講習等の実施により、自分の得意や苦手に応じた学習ができています」や、「高校に入学してから学力が向上していると思う」の項目で数値が低い。課題探究などの取組みは素晴らしいが、学力向上という点においては前々から課題を感じる。勉強する仕掛け（宿題や意識付けなど）が必要なのか。

また、（教職員）「学校としてのいじめ対応」の数値が高いのに比べて、（生徒）（保護者）の数値が低い。どんな要因が考えられるか。

→ 例えば国語については中学と比べて文章も難しくなっており、文章理解ができていない生徒もいる。学力は上がっていると感じているが、学年に応じて教材が難しくなるため、自信を持ってない生徒がいる可能性がある。

→ 高校からは教科・科目が大幅に増えるのでついていくのが大変だと思う。また学年内で順位を示すこともないため、生徒が自分自身の学力向上について客観的な評価をするのが難しいということ要因として考えられる。

→ いじめ対応のアンケート項目で「わからない」と回答している生徒や保護者が多いことから、肯定的な数値が低くなっていると推測される。今年度のいじめ認知件数は0であり、教職員一同いじめ防止には全力で取り組んでいる。

- ・「地域の課題解決につながる学習」について、全体的に数値がよかった要因は何か。

→ 地域の課題解決にむけた学習への意識を早期から持てるように工夫して取り組んできた結果と推測される。

- ・情報発信についての数値が上がった要因として考えられるものは何か。

→ 一部の保護者向けの文書を保護者にメールで送信していることや、今年から生徒が主体となってSNSを発信していることなどが影響していると思われる。ただ当該SNSを利用していないと情報を閲覧できないという特徴がある。保護者が普段こういった形で情報収集をしているのかなどリサーチしていきたい。

- ・学力に関して言うと、「もっと知りたい」と思う感覚こそが学力だと思う。生徒たちは先生と話したり質問するのが好きな子が多い印象。授業参観もいつも楽しそうに見える。この学校を何年も見ているが、アンケートの数値よりも学校がよい方向に進んでいるという印象。

学校経営計画及び学校評価

(准校長より、スクールポリシー、学校経営計画及び学校評価について資料説明)

- ・遠隔授業とはどういうものか。

→ 不登校生徒へのリモート授業など。遠隔授業について、これまでは発信者側と受け手側の両方に教員がいる場合に単位認定に繋がっていたが、今後は場合によっては受け手側に教員がいなくても単位認定ができるようになる見込みであり、本校でも準備を進めていく。

来年度に向けての取組みと提言

- ・PTA や協議会を通じて様々な面で、保護者として普段知ることができないような学校の内側を知ることができた。
- ・今年度の授業見学で、電子黒板を使用されており感心した。生徒と教員の関係も良いように見えるので今後も続けてほしい。
- ・教職員の努力・工夫がたくさん感じられた。今後も地域連携において力を合わせて新しい取組みをしていきたい。
- ・能勢ささゆり学園と能勢分校のSDGsフェスタは、地域の人はとても評価している。ささゆり学園の生徒へもよい影響を与えてくれていると感じる場面もある。能勢分校として少人数教育の強みを活かしながら地域と結びついているからだと思う。能勢ささゆり学園には、高校からは能勢から出たい生徒、残りたい生徒それぞれだが、能勢分校の印象はよくなっている。今後も子どもたちの未来に向けてよりよい連携をしていきたい。